

---

# 昼食中の会話

早川 真治

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

昼食中の会話

### 【著者名】

早川 真治

N9006B

### 【あらすじ】

突然解らなくなつた。警察と云ひ漢字だから下りつて……。（意）味は、ありません

学校の昼休み。我々は、いつものように談笑していた。

そして、突然世界三大珍味の話になる。

「あれ…？世界三大珍味って何と何と何だけ？」

「『トリュフ』『キャビア』後なんだっけ？」最後の一つが思い出せない。それは、皆同じようだつた。

「あーーー！『フカヒレ』じゃない！？」

皆が『あーー』とその通りだと云わんばかりにもらす。

「そうか…『トリュフ』『キャビア』『フカヒレ』かーありがと」

「あれ…？世界三大美女つて…？」今度は、美女について。

「ああ…クレオパトラ、楊杞妃？漢字忘れちゃつたよ。」あと一人

…。

「小野妹子…？」皆が あ…。妹子かー。そんな空気を出している。

「よつしゃーーハンバーグもらいーー！」弁当をつつきあいながらの会話。

「おいーハンバーグ取るなよー！」そう云いながらもタコをさくウインナーを奪つている。

「火星人で…本当にタコみたいなんかなあ？」誰も見たことがない訳で…。適当に『かもな』としか云うしかない。

「世界七不思議つてー何だつけ？」

「さあ？ピラミッド モアイ ミステリーサークル ムー大陸 スフィンクス 万里の長城 鎮国じやない？」もう適当もいいところだ。

「…自分で調べるよ」それがイイと皆頷いた。

「あー何だっけ？あのーさアレだよ！…」アレだよと力強く云われてもわかるはずもない。

「三大疾病？ガン 脳卒中 心筋梗塞じゃないかなあ？」ああ…保険に入つてれば安心だよね。と皆口にする。今は、安くなつてきたから入りやすいしかけ捨てが減つてきたからいいよね。

「じゃあさーあのージャングル…何だっけ？忘れたけど人を食べる魚つて何だっけか？」

「「フカヒレ！」」

(後書き)

お疲れ様でした。ギリギリ700字、毎回少しありで700字辛いです。いつも通り気分で書いた物です。誤字脱字ありますね(アキット) わたして…でワロレあとがき終了(ノシ)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9006b/>

---

昼食中の会話

2011年1月1日22時24分発行